

目次



はじめに

1章 立体基盤研究の目的と概要	p 1
1. 研究の目的	
2. 本研究報告の要約	
2章 立体基盤建築物に関する研究の経緯と課題	p 5
1. 人工土地構想の始まり	
2. 人工土地に関わる研究開発	
3. スケルトン・インフィル方式の研究開発	
4. 立体基盤建築物の普及に向けた課題	
3章 立体基盤建築物の定義と有効性	p16
1. 立体基盤建築物の定義	
2. 立体基盤建築物はなぜ必要か	
4章 立体基盤建築物に対応した建築関連制度の検討	p20
1. 現行制度では対応が難しい理由	
2. 増築方式の可能性と課題	
3. 二段階建築確認制度の基礎的検討	
4. 二段階建築確認制度の実現に向けた建築基準の整理	
5章 立体基盤建築物に対応した不動産所有関連制度の検討	p32
1. 現行制度では対応が難しい理由	
2. 立体基盤建築物の不動産登記の問題	
3. 立体基盤建築物に対応した不動産所有関連制度の概要	
6章 賃借権方式によるスケルトン賃貸の提案	p40
1. スケルトン賃貸における「附合」の問題	
2. 賃借権方式の提案	
3. 賃借権方式の不動産価値の問題とその解決方法	
4. 家賃一括払い賃借権方式（利用権方式）の普及上の課題	
5. 賃借権を担保に融資する場合の担保設定方法	
7章 立体基盤所有法（仮称）の提案	p57
1. 立体基盤所有法の目的と効果	
2. 立体基盤の所有権と登記のあり方	
3. 二次構造物の所有権と登記のあり方	
4. 立体基盤の存続期間及び地表部建築物の取り扱い	
5. 権利者が破産した時の対処方法	

6. 立体基盤建築物の終子と取り壊し

7. 当事者間の契約書

補章 坂出市人工土地の調査 _____ p70

1. 坂出市人工土地の概要

2. 調査方法

3. 土地所有権の実態

4. 建物所有権の実態

5. その他の事項

6. 調査資料－坂出市人工土地の第二期の登記簿調査－

あとがき _____ p80

参考文献 _____ p81

連名者全員が意見交換を行いつつ執筆したものであるが、その中でも、特に中心となって担当した部分は下記の通りである。

担当	小林 秀樹	全章
	藤本 秀一	4章、5章の2
	江袋 聡司	4章の4、5章の2